

## 浜松市障がい者自立支援協議会中エリア連絡会

## 第2回全体会会議録

- 1 開催日時 令和6年10月2日 午前10時から午前12時
- 2 開催場所 和合せいれいの里 研修センター 2階 研修室1
- 3 出席状況
- |     |  |
|-----|--|
| 委員  | 相談支援事業所アグネス<br>ウィズ蛭塚<br>相談支援事業所だんだん<br>ワークセンターふたば<br>地域包括支援センター和合<br>浜松市障害者相談員<br>浜松市中区民生・児童委員協議会<br>浜松市社会福祉協議会浜松地区センター<br>浜松市教育委員会指導課 |
| 事務局 | 浜松市中障がい者相談支援センター<br>浜松市中央福祉事業所社会福祉課  |
| その他 | 浜松市障がい者基幹相談支援センター  |
- 4 傍聴者 あり（Zoom参加） 28事業所 32名
- 5 議事内容
- 1 浜松市障がい者自立支援協議会全体会会議報告について
  - 2 日中サービス支援型共同生活援助の評価・助言について
  - 3 中エリア連絡会活動報告 部会活動中間報告について
  - 4 意見交換
- 6 会議録作成者 浜松市中央福祉事業所社会福祉課障害福祉第二グループ 成瀬
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無  ・無

## 8 会議記録

- |   |         |  |
|---|---------|--|
| 1 | 開 会 司 会 | 中障がい者相談支援センター  |
| 2 | あいさつ    | 浜松市中央福祉事業所社会福祉課長   |
| 3 | 自己紹介    |  |
| 4 | 議 題     |  |
|   | (1)     | 浜松市障がい者自立支援協議会全体会議報告について<br>資料1に基づき報告  |
|   | (2)     | 日中サービス支援型共同生活援助の評価・助言について<br>資料2・3に基づき、ラシエル西浅田が報告<br><意見交換><br>(構成員) 緊急時の受け入れ体制について話がありましたが、こんな受け入れは困ったという事例があったら教えてください。<br>(報告者) 緊急時の受け入れは情報が少ないのは当然ですが、情報の少なさが課題です。アセスメントのない中、受け入れる職員のストレスもあります。分かってもらえないという本人のストレスもあるということ共有し、どう対応していくのか、悩ましいところだと思います。<br>限られた情報のみだと職員のストレスが強くなると、受け入れられない理由を探してしまうというか、ポジティブにはいかないなと感じています。<br>(事務局) 当センターでも半年ほど前に緊急の受け入れをお願いさせていただいて、助けていただいたという事例がありました。お願いする場合は、より新しい情報を提供してもらえればありがたいということですね。<br>(報告者) はい<br>(構成員) 利用者や職員のアンケートでは、厳しいご意見もあると思いますが、正直に発言してくれる風通しの良さを感じ、良いことだと思いました。大まかで良いのですが、外部サービスを利用している方の割合など分かれば教えていただきたいです。また、訪問看護師の役割が大きいと言っていましたが、どのような理由があるのか教えてください。<br>(報告者) 3割ぐらいの方が精神科のデイケア、生活介護、就労などで出かけています。訪問看護師については、30分間といったまとまった時間を取っていただけるので、しっかり話を聞いてもらえるということがあります。また、お世話をしている職員には話しにくいことを伝えやすいということもあります。<br>(構成員) グループホームも地域の縮図のようですね。今後、ヒントになることがあれば教えていただきたいと思います。<br>(構成員) 急性期の病院や学校などへの広報活動はしていますか。グループホームが、精神科の病院の入退院を繰り返している方や高校等を中退した方、児童養護施設を退所した方の受け入れ先として献身的に見てくださっていることは、こういう連携の中では知っていますが、急性期の病院や学校などにも知っていただくと、さらに、グループホームが生活の基盤になっていくのではないかと思います。また、ケースや取り組みで苦勞されている点などがありましたら教えてください。<br>(報告者) 私の前職が急性期の病院だったので、その繋がりや、興味を持っていただいている病院はあります。ただ、グループホームというと、障害者というより、高齢者のイメージの方が強く、認知症のでしょ |

うといわれることが多いです。学校との連携に向けた取り組みは始めたばかりで、まだ視察に来ていただくことはできていませんが、こういう施設ですという挨拶には行っています。地道にやっていくしかないと思っています。

(構成員) アンケートの当事者の意見はとても参考になりました。当事者の意見は、いろいろな角度から問うことによって、少しずつ出てくるものですから、それを受け止めて、どうしていいかと考えていただけたら良いです。

親は子どもの幸せや居心地の良いところで生活することが願っていますが、職員の方にも生きがいを持って仕事をしていただき、支援者ではあるけれど、半分一緒に暮らしているという関わりがとても良いと思います。子どもたちの人生とか生活を全般的に支えていただき、分担していただいていると思っています。

グループホームの職員の方には長くお勤めしていただいて、子どもたちが居心地良く、安定した生活を送れるようにして欲しいです。

職員の方の研修についても、一斉に行うのは難しいと思いますが、いろいろな機会を利用して、知識を少しでも広げていただくと良いと思います。

(報告者) 当事者の家族はなかなか本当のところは言えないのですよというのが頭に残ってしまっていて、今回のアンケートで満足してはいけないと思っています。

### (3) 中エリア連絡会活動報告 部会活動中間報告について 資料4に基づき報告

#### (4) 意見交換

(事務局) 8050世帯や制度のはざまの世帯への支援が増えていますが、一緒に支援していくにあたっての要望など聞かせていただきたいです。

(構成員) エリアが広がったというところで、社協のコミュニティソーシャルワーカーの人数を増やしています。日々、いろいろなところから相談が入っています。ただ、障害に特化した相談というのは、現在、それほど多くはありません。今後、障害のある方の相談があった場合には連携していきたいと思っています。

(構成員) 常々、相談からこぼれることのない体制が作れないものかという提案を地域ケア会議などでさせていただいています。親が高齢期に入って、経済的にも、精神的にも、肉体的にも大変になって、再度、相談に上がってくるまでの十数年の空白がどうにかならないかと、高齢者の支援の分野では非常に課題だと、どの包括も感じていると思います。

引きこもって数十年というケースは多いです。もちろん地域の民生委員や介護保険の事業所とも一緒に検討するのですが、どこにも相談しない期間が長かったことで、親も本人も頼らない仕組みが出来上がっています。就労ができていない時や就学が終わる時に支援の手が上手に入る仕組みができると良いと常々思っています。

(事務局) お子さんでも複雑な家庭環境の中で生活されている方がいると思いますが、何かご意見ありますか。

(構成員) 今、中学3年生の進路について、支援者に繋がるための会議を予定させていただいているのですが、就学前、就学時から義務教育が終わるまで伴走し続けることができる仕組みが重要だと思っています。文部科学省の方は、スクールソーシャルワーカーとは、生徒指導上の問題行動や不登校などへ対応する専門職と言っています。不登校等の相談をいただいて、先生方と一緒にアセスメントを行い、アセスメントに基づく支援を行っていくという仕組みを導入することが、私たちがやるべきことと考えています。その考え方は特別支援教育という考え方と相まって少しずつ浸透ってきて

いると感じますが、問題行動があって不登校があって、どうしたらいいでしょうかという話にはアセスメントがないのです。どういうお子さんなのか、どういう家庭なのかというところから、アセスメントしていく、そういう考え方を学校に根づかせていくのが使命と思っているのですが、その使命を遂行するには、専門性も人材も足りないと思っています。まずは、就学前の情報をしっかり引継ぎ、小中学校でこの仕組みを根づかせていくことが大事だと思います。

(構成員) 先ほどの話を受けて、本当にアセスメントは重要だと思いました。子ども部会のツールの浸透は大切だと思います。アセスメントはやはり情緒面の成長の保障をどのようにするかという話だと思います。「わかばプラス」などにも触れていただければ良いと思います。若者相談から始まる一番重要な年齢層かと思っていますので、ここから継続して支援していく体制が作っていかないと良いと個人的に考えています。

(構成員) 幼少期から学校へのつなぎとして、5年ほど「かけはしシート」が使われていますが、今年度、児童発達分野で5領域に沿った形で個別支援計画書を作りなさいということになりました。一方、学校は学校で個別支援計画が立てられていて、その5領域と同じような項目で作られています。市の子ども部会で、これを一緒にできないかという話をして、そのまま引き継いでいけるようなシートの作成をさせていただいています。この部会には、教育委員会の方も参加していただいています。さらに、「かけはしシート」もそうですが、アセスメントを行い、その内容をきちんと引き継いでいく仕組みも考えていかなければならないと思います。

あと、義務教育が終わると相談支援が途絶えてしまうのはずっと課題とされてきましたが、義務教育終了だけでなく、18歳以降の支援についても課題だと考え、入所施設等から地域に移行していくところの移行調整会議の場を作り、きちんと次の場所へ移行させていくこともしています。今年度は、児童相談所が関わっているお子さんが児童福祉から障害福祉に繋がっていかないことが課題となっていました。そこを繋いでいく仕組み作りを始めています。

(構成員) これは要望ですが、中エリアは広いこともあり、全体としてみた時に、分かりにくいです。こういった支援体制を構築しようとしているところの何をそれぞれの部会で取り組んでいるのか、字づらでは分かりにくいので、何か見えるような絵があると良いです。

(事務局) ありがとうございます。何かわかりやすいものが作れると良いです。ここでいただいた意見をもとに検討していければと思います。

#### 4 閉会のあいさつ 浜松市中央福祉事業所社会福祉課長

以上